

ライフサイエンスと 国際性をキーワードに 21世紀型の大学づくりを

学長再任にあたって

八田英二大学長に聞く



八田英二 (はった えいじ)

1949年生まれ。71年同志社大学経済学部卒業。77年カリフォルニア大学バークレー校大学院経済学Ph.Dコース修了。74年同志社入社（大学経済学部助手）、経済学部長・大学院経済学研究科長を経て、98年から大学長。日本私立大学連盟副会長、大学基準協合理事、財団法人大学コンソーシアム京都理事長。日本経済学会、日本経済政策学会、日本統計学会会員。
主な著書は『広告と市場競争』（有斐閣、1981年）、『日本経済を見る眼』（共著、晃洋書房、1998年）ほか多数。

同志社大学の学長に八田英二学長が再選され、2007年4月から連続4期重職を担われることになりました。これを機に、21世紀の大学づくりにかける抱負を、法学研究科博士課程（前期課程）で学ぶ端芳野さんがインタビューしました。

関係者の自信と危機意識が推進した大学改革

端 過去3期、9年間の成果をお聞かせください。

八田 この9年間、教育・研究において幾つかの大きな動きがありました。学部・組織については、2004年に政策学部、ロースクール、ビジネススクールができました。工学部には環境システム学科と情報システムデザイン学科という新たな2学科を開設しました。ただ、それ以前から研究面の質的向上をめざし、いろいろな布石を打っています。京都府立医科大学と学術協定を結び、それに基づいて学内に生命科学関連の研究センターが合計7つできました。あるいは学研都市病院との学術交流協定も結びました。教育面では「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」および「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」という大学教育支援プログラムに、同志社では現在6つの取り組みが採択されています。同じく文部科学省が推進する「21世紀COE（Center of Excellence）」には「一神教の学際的研究」と「技術・企業・国際競争力の総合研究」という、2つの拠点形成計画が採択されています。2005年には社会学部と文化情報学部を設置し、同志社大学は9

学部体制になりました。

端 改革の原動力は何だったとお考えですか。

八田 教職員、学生も含めて私学同志社の教育への厚い信頼、自信があったとともに、やはり同志社関係者の危機意識があったからこそ、これだけの改革ができたのではないのでしょうか。私自身は少し旗を振ったくらいであるとは思っていません。この9年間でできあがった方向を、今後とも進めていきたいと考えています。ただ、同志社の将来は過去の延長線上に描くものではありません。「同志社はこうあるべきだ」という将来像から、現代に向かって線を引くべきです。今後関係者、教職員、学生それぞれの持っている、同志社に対する望みや意見を聞き、将来構想の実現に向かって進んでいきたい。いま私自身に課している一番の課題は、21世紀に入った今、建学の精神に沿ってどう同志社を発展させていくかということです。良心教育をいかに21世紀に生かしていくか。そして教育の質的向上をめざして4期目を務めていきたいと思っています。



端 芳野 (はた よしの)

2002年土佐高等学校卒業、06年3月同志社大学法学部卒業。同年4月同志社大学大学院法学研究科私法学専攻入学。研究課題は会社法学。特に委員会設置会社のガバナンスについて。将来は6年間学んだ法律の知識を生かして、企業法務などに携わって行くことを希望。趣味は、京都の神社仏閣を自転車で巡ること。愛読書は、司馬遼太郎『坂の上の雲』など。

導入教育と少人数教育

端 さて2007年に大学全入時代を迎え、具体的にどのような大学のあり方をお考えですか。

八田 4年制私立大学の40%は定員割れという時代に生き残っていくのは、結局は高水準の教育を提供し続ける大学でしょう。ただ私の学生時代、大学へ進むのは6人に1人くらいでしたが、今は2人に1人。すると、入学する学生の質も変わっているわけです。この現状に合う形の授業あるいはカリキュラムを提供するなど、大学が細かい対応をしていく必要があります。現在とくに重要なのは導入教育です。勉強の仕方、大学で何を勉強すべきか、同志社で何が得られるのかということを指導する必要があります。単に高度な研究を提供するだけでは、今の学生はついてこれません。そういう面で、最近の大学は「FCD（Faculty Development）」に取り組んでいますね。授業方法の改善を文部科学省も推進しています。

端 法学部法律学科でも現在は新入生を対象とした「リーガル・リサーチ」という少人数授業があり、レジュメの書き方、文献の調べ方、脚注のつけ方など、細かく教えてもらっていると思います。今の1・2年生を見ていると、確かに私たちの時に比べると発表方法などが上手だと思っています。

八田 少人数教育、それが教育の基本。したがって、積極的に教員の数を増やしていく。ここ数年間で同志社大学の専任教員は100人以上増えつつありますし、あと数年経てば学部も新しくできますから、もう少し増えます。いろいろなタイプの先

生方がおられることも、学生の向学心に良い影響を与えていると思います。

生涯学習の場の提供と地域貢献の推進

端 慶應義塾大学が大阪にサテライト教室を作るそうですね。同志社が東京に新しい拠点を作る予定はありますか。

八田 すでに東京オフィスはありますが、私は京都にあつてこそ同志社大学だと思っています。ただ、同志社の知的財産を利用しようと言っていただけなのであれば、京都まで来なくても、今はインターネットを使ったeラーニングという遠隔授業がありますね。これならいったん同志社を卒業した方や遠方にお住まいの方でも、同志社の教育、知的財産にふれていただけます。地域との連携はもちろん大切ですが、今後は全国の方々にも同志社の教育サービスを提供したい。今年4月にソフトバンクがサイバー大学という通信制の4年制大学を開校します。アメリカや韓国ですでにこういうオンライン大学ができています。同志社大学でも教育の社会的還元の方法の一つとして、インターネットを利用する方向を模索中です。

18歳人口は減りつつありますが、勉強したいという高齢者人口は増えつつある。団塊の世代の大量退職時代も到来しました。生涯学習意欲の高まりを見ると、こういう方々にもっと大学を利用していただけるような体制作りが必要です。私は基本的には、あらゆる意味で卒業生や社会、地域の方々、また観光客の方々にも、積極的に大学の中に入ってきていただきたいと思っています。



4期目の抱負を語る八田大学長と端さん

端 同志社大学を卒業しても、望めば一生同志社と関わっているような時代になってきたのだですね。今後新たな教育環境の整備計画などはありますか。

八田 現代の情報コミュニケーション技術を最大限活用して学内に採り入れる形で教育・研究サービスを提供する、あるいはインフラストラクチャーを構築していく必要があります。2013年には文系学部が今出川に戻りますので、岩倉へ移転する同志社中学の跡地に新しい建物を建てるなどの予定もあります。めざすのは21世紀型のキャンパス。単に教室があるだけではなく、さまざまな出会いのある校舎にしたい。あるいはICT（情報通信技術）に対応した新しい設備の構築も考えています。

端 京田辺キャンパスでは京田辺祭など地域への貢献や行事を行ってきました。文系学部を全部今出川に引き揚げるとなると、京田辺市に影響はないのでしょうか。

八田 京田辺には2008年、スポーツ健康科学部と生命医科学部という理系の最先端を行く2学部ができ、工学部は理工学部改組再編されます。それを積極的に活用していただいたり、交流を盛んにしたりすることによって、京田辺市にとっても新たな展開が期待できるものと考えています。確かに学生数は減りますが、大学と地域とのつながりは単に学生数の多少ではなく、大学の持つ知的資産をどれだけ地域に還元できるかにかかっています。教育・研究という大学の二つの社会的使命に続く、三つめの使命が地域貢献。大学を取り巻いている目に見えない壁を、さらに低くしていきたいものです。京田辺キャンパスには最先端の学術研究が可能な建物を造っていきたい。現在も三

つ目のキャンパスである学研都市キャンパスのそばに学研都市病院があり、病院との交流も今後さらに進むでしょう。生命医科学部を中心としたライフサイエンスに特化したような、特長

あるキャンパス構想を私は持っています。今出川にも今年1月、寒梅館にアンチエイジングドックができて、大きな反響をいただいています。

二つの“知”を身につけた同志社人を育てる

端 これから同志社大学の学生には、どのような人材に育ってほしいとお思いですか。

八田 同志社大学では二つの“知”を手に入れていただきたいと思っています。一つは学術技芸の知識。もう一つの知は人格的なもの、知恵ですね。得た知識をどのように社会のために活用するのかという知恵。しかも、キリスト教精神に基づいた知恵を獲得していただきたい。そのためには同志社科目やチャペルアワー、函館キャンパスなど、多様な機会を最大限に利用して、新島襄の人となり、同志社の歴史、あるいは同志社は皆さんをどのような人間に育てたいかということを知っていただきたいですね。そして大学をあらゆる面で自己啓発、人格形成の場として利用し、学生生活を謳歌してほしい。その上で“同志社人”になって卒業していただきたいものです。

受験生の皆さんにも、「同志社では何が学べるのか」という点について、学問的なことと同時に、私たちがどんな人格形成の場を提供しているのかということも、ぜひとも大学選択の際の大きなものさしにしてください。各大学はそれぞれ建学の精神が違いますから、百の私学があれば、私は百の人格形成の場があると考えています。しかも同志社は全国から多様な人が来ているから、優れた人々、特色のある人々が多いという

面では、出会いの場としては最適ではないかと考えます。

端 “同志社人”とは、どのような人とお考えですか。

八田 同志社の卒業生の特徴は、社会的弱者の方々のために社会福祉分野などで働かれる方が非常に多いことです。私も学生時代、そういう方々のお話をよく聞いて感激したものです。経済界で活躍したり、政治家や官僚になったりする方もおられますが、同志社はそういう面では、少し他の大学と違っているように感じます。新島先生も演説でおっしゃっていますね。「わが校の門をくぐりたる者は、政治家になるもよし、宗教家になるもよし、実業家になるもよし、教育家になるもよし、文学者になるもよし。かつ少々角あるも可。奇骨あるも可。ただかの優柔不断にして安逸をむさぼり、いやしくも姑息の計をなすがことき軟骨漢には決してならぬこと」と。

私が一番嬉しいことは何かと言うと、同志社の卒業生が自分のお子さんをまた同志社に入れたいと思ってくださることです。それはご自分が同志社から受けた教育、影響を高く評価しておられるから。教職員にとつてはそれが一番大きな社会的評価です。母校に子どもを入れたいと本当に思ってくださいような大学にしていきたいと、私たちは考えています。

同志社大学を世界的な研究拠点に

端 今後同志社大学がめざす教育・研究について、4期目の抱負とともにお聞かせください。

八田 これから生命科学分野はますます重要になりますし、新設される生命医科学部には優れた神経科学の先生方をお招きす

ることも決定しています。今後の同志社大学の方向性をキーワードで表すならば、京田辺は「生命」「健康」「情報」「最先端技術」という分野での研究・教育キャンパスに、今出川は文科学部の国際的研究あるいはリベラルアーツに重きを置いたキャンパスにしたいということです。

もう少し中期的な視点から言うと、同志社大学を国際的な学問水準に耐える大学にしたい。世界的なランキングに載るような大学にして、国際的認知度を高めたいですね。そのために積極的に海外の研究機関や大学と連携して、組織的に研究・教育が行えるようにしたい。しかもせっかく京都という、文化的、哲学的、宗教的なものに満ちた立地にあるわけですから、これを最大限活かして同志社を世界的な研究拠点にしたい。そのためにも素晴らしい人材、学生、大学院生を集めていきたいと思っています。これが私の今後3年間の課題です。

端 学長は日本私立大学連盟副会長など、学外でもいろんなお仕事をされて毎日非常にご多忙だと思います。そのようなタフさを保つ秘訣は何ですか。

八田 ストレスは右から左へすつと流して解消するようにしています（笑）。一生続く悩みというものはなく、どこかで解決されるもの。もちろん日々の努力は必要ですが、たとえ最終的に良い結果が出なかったとしても、あとは神様に委ねれば悪いようにはされません。

端 本日はありがとうございました。私も会社で定年まで勤め上げられたら、また同志社で学びたいと思います。

（2007年1月26日 今出川キャンパス学長室）